

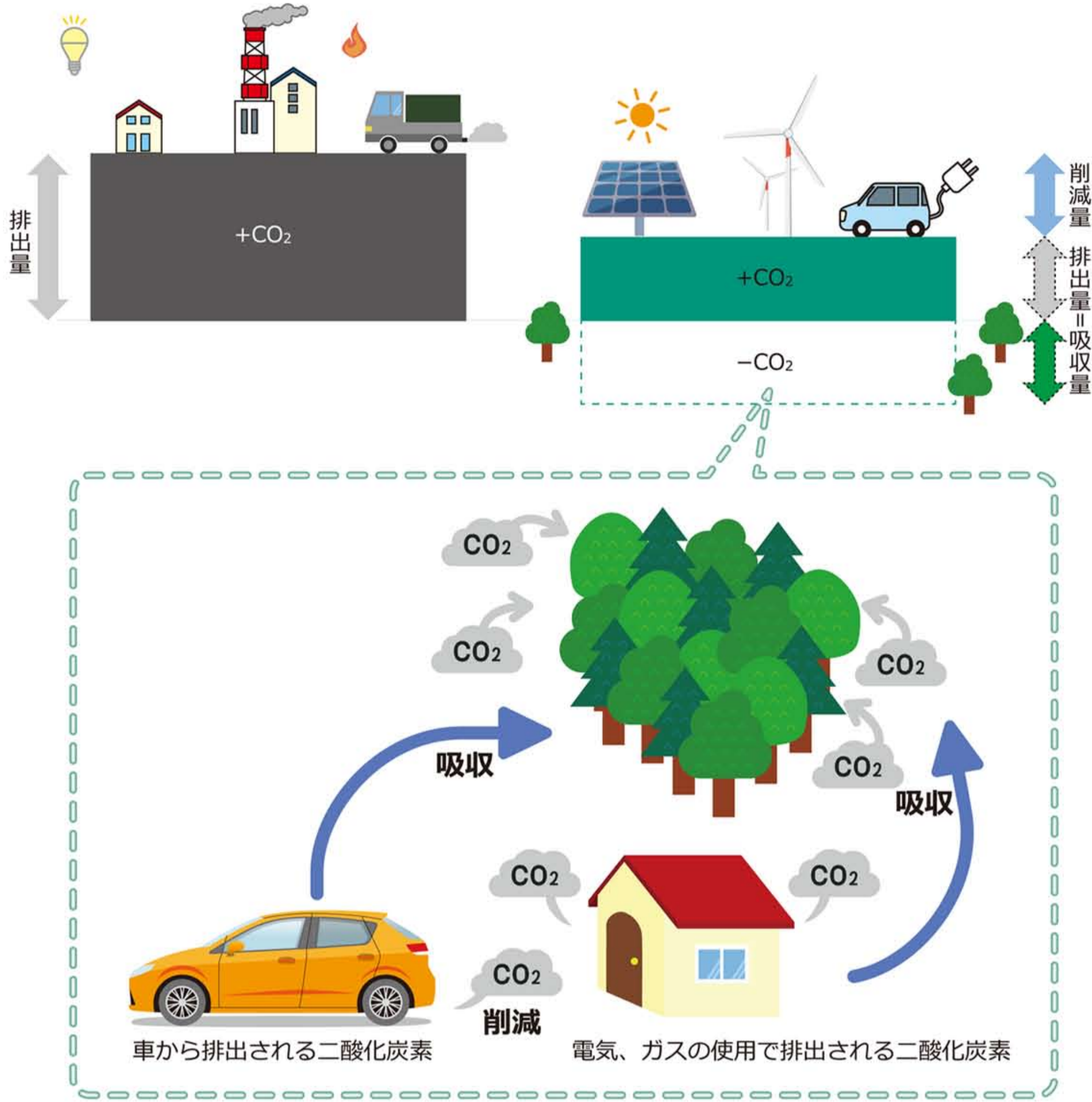
# 脱炭素社会（カーボンニュートラル）～子ども達の未来のために～

2020年10月、政府は2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、カーボンニュートラルを目指すことを宣言しました。

「排出を全体としてゼロ」というのは、車や家庭・工場などからの二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの「排出量」から、省エネルギー・エネルギー効率の向上や再生可能エネルギーの利用などによる温室効果ガスの「削減量」と、植林、森林管理などによる「吸収量」を差し引いて、合計を実質的にゼロにすることを意味しています。

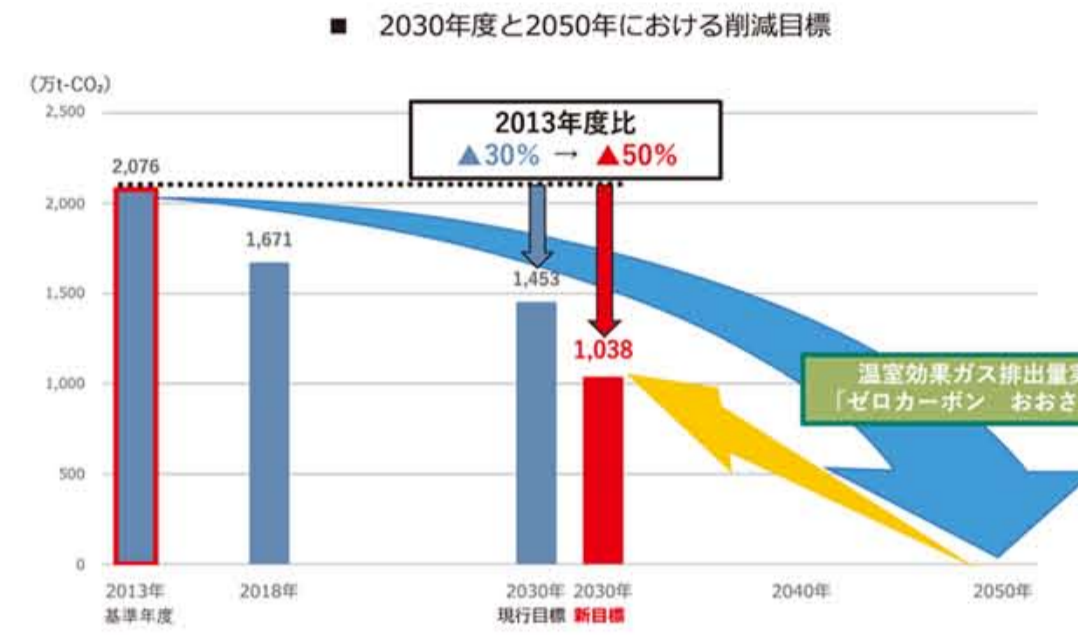
近年、温室効果ガスの影響による地球温暖化は、地球全体の「気候変動」だけでなく、生物の生存基盤を揺るがす「気候危機」を引き起こす世界規模の課題となっています。

将来の世代も安心して暮らせる「脱炭素社会の実現に向けて」、一人ひとりが意識して行動することが大切です。



## 大阪市の2030年度目標

2030年度目標 2013年度比50%削減



大阪市では、2050年の温室効果ガス排出量を実質ゼロとする脱炭素社会「ゼロカーボン おおさか」の実現を長期目標に掲げ、2030年度までに温室効果ガス排出量を2013年度比で50%削減することとしています。

## 私たち一人ひとりができることは…?

暮らしにおける一人あたりの二酸化炭素排出要因 トップ3

- ・照明や家電などの電力の消費
- ・自動車の使用
- ・冷暖房の使用

最近では、二酸化炭素等の排出が少ない、または全く排出しない自動車も販売されているよ。次は自動車に注目してみよう！

## 電動車とは？ ～自動車の電動化が加速～

カーボンニュートラル実現に向けて国で策定された「2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略」に、自動車の電動化目標(乗用車は、2035年までに、新車販売で電動車100%を実現)が掲げられており、今後電動化は加速していきます。

<b>(バッテリー式) 電気自動車</b> ◆EV (Battery Electric Vehicle)	<p>動力: 電気 駆動系: モーター</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ガソリンや軽油などの化石燃料を燃やさないの、走行時に<b>二酸化炭素は一切排出しません。</b></li> <li>●エンジン車に比べると、低速で走る場合の振動・騒音が少ないのもメリットです。</li> </ul>
<b>プラグインハイブリッド自動車</b> ◆PHV (Plug in Hybrid Electric Vehicle)	<p>動力: 電気+化石燃料 駆動系: エンジン+モーター</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●HV (ハイブリッド自動車) の一種。</li> <li>●電気、化石燃料どちらも動力になります。</li> <li>●外部から充電ができます。</li> </ul> <p>外部からの充電ができる</p>
<b>燃料電池自動車</b> ◆FCV (Fuel Cell Electric Vehicle)	<p>動力: 水素由来の電気 駆動系: モーター</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●燃料電池とは、水素と酸素を化学反応させて発電する装置のことです。名称には「電池」という言葉が使われていますが、機能は「発電装置」です。</li> <li>●走行中に排出するのは水のみで、<b>二酸化炭素は一切排出しません。</b></li> <li>●水素タンクを搭載し、モーターを使って走ります。</li> </ul>
<b>ハイブリッド自動車</b> ◆HV (Hybrid Electric Vehicle)	<p>動力: 電気+化石燃料 駆動系: エンジン+モーター</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●電気、化石燃料どちらも動力になります。</li> <li>●外部からの充電はできません。</li> </ul> <p>外部からの充電はできない</p>

### ◆大阪市の取組み

大阪市では、走行時にガソリンや軽油(化石燃料)を使用しないZEV(ゼブ:ゼロエミッションビークル)であるEV(電気自動車)やFCV(燃料電池自動車)の普及拡大に向け、目標を定め、積極的に取り組んでいます。

また、FCVを公用車として初めて導入し、脱炭素に向けた水素エネルギーの可能性や、FCVの環境性能・給電機能などの魅力を発信しています。